



未来へ向けて 住みよいまちづくりを

置戸町長 井上 久男

新年、明けましておめでとうございます。

町民の皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より町民と行政が一体となったまちづくりの推進に深いご理解とご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、全国各地で大雨による土砂災害が発生し、改めて自然の猛威を実感するとともに、災害に対する備えがますます重要と痛感しております。自然災害や人的災害に速やかに対応できるよう総合防災訓練や自主防災組織での防災訓練の実施と防災無線のデジタル化など可能な限り安全の確保に努めております。災害時には、自分の身は自分で守ることが基本となりますが、地域での支え合いによる安全確保も重要です。皆さんと一しよに支え合う体制づくりを進めたいと考えております。

国に目を向けますと、昨年は衆議院議員総選挙が実施され、第4次安倍内閣が発足しました。景気の底上げを継続することのことですが、消費税の引き上げや少子高齢化など課題が山積みです。地方が活力に満ちた政策実現に期待するとともに、私自身も国に対し地方の意見をしっかりと伝えていきたいと思っております。

北海道では、平成30年4月より国民健康保険が都道府県を単位として運営されます。給付の安定性が期待される半面、保険税の上昇も懸念されます。

昨年4月に「おけと勝山温泉ゆうゆ」が2年ぶ

りに再スタートを切ることができました。町民の会社として一般社団法人「おけと勝山温泉ゆうゆ」を設立し運営いただいておりますが、置戸の観光拠点として誰からも愛される施設に育っていくことを願っています。

また、地域おこし協力隊を2名採用し、おけと勝山温泉ゆうゆを拠点とした活動を進めております。現在は勝山地域での活動が主なものとなっておりますが、地域活性化の一翼を担っていただけるよう期待しております。

懸案でありましたスポーツセンターの耐震化と大規模改修をはじめ、上下水道の施設改修もほぼ完了し、新料金でのご利用をお願いすることになります。また、18歳の春旅立ち応援事業や交通弱者の利便を確保する患者輸送車の増車配備などひとつひとつではありますが、着実に事業を進めております。

しかし一方、鉄路の問題や人口3千人を割り込んだ置戸で、住みよいまちづくりをどう実現できるか、今まで以上に真剣な議論が必要になります。

「自然を愛し、人にやさしいまちづくり」から、未来に向かった新たな計画策定も始まります。皆さんからのご意見をいただきながら、職員一同しっかりと策定作業にあたりたいと考えおります。

結びになりますが、町民の皆さまが健康で幸せ多い年でありますよう、心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。